

特42

917





中の巻ヨリ 若松の
 明る燈したる身
 とも頼み立て
 利之節と兵策
 拮抗ふらふ事
 一より又より一層
 繋ぐ来るを業い
 殊よ
 後々
 蠅と
 へ思ひ
 谷がら由
 ことまじき
 是をよ小吏

ト早刀下

一なる恩もはらると
 のひ思ふ今でも
 何れも
 必ま一も
 吾らも
 ありありみよはも

一箇の商賣

切あると
 あれ
 波をどみよを男の
 弟が遠
 夫意が
 つた

まづく
 之は
 つるの
 ぞと
 利之
 多る
 利之
 多る

娘浄瑠璃
 噂大寄
 壬午三月新板

初編
 下の巻

金松巻

金持

歌川國村画

國本豊水編

寺の傳説完

夫體の中
小園へまをら
私へかきあ
文のそく考
用と述べて居
何れどりの利
も深山の世活
あつと其冥加
随分お買物
目録でまう
精く届くさ



二四私小
母

大て冥下
如何で
せうと
人殺
入の

まる様うま附
てハ幸えのや
小半に杯と
事ハ何由私ハ
極ひや
幸え
のハ
幸え
のハ
位と
おきて
何と云
入費ハ



自うらまで我を
張肩ま不第あつと
家ままど別よ替
廉もあられハ幸を第
扱と冷笑ひテモ
房を張辺とや
首尾よくハバ
さうごと小夫小
云控不興ハ次

今更のふきももあがり
 此等かきへ不都合ら
 一の家あぶらうして
 何となく一燈
 又執事ゆかり
 一人破ッッ
 利の弟の
 僕へ持きて
 黄へ眉根
 ふ教とよせ
 今の幸さん
 の玄草が種ふ
 降ッく板でも



阿舟が居
 何となく
 出さうともいひ
 幸さんか
 脱又みす
 彼場合
 一の香でも

阿舟の居と若を
 困るトもアあり
 半ゆめげふ何なる
 のんう彼丈の金さ人極
 へて折て来とへ折てあんで
 今更のふきももあがり
 此等かきへ不都合ら
 一の家あぶらうして



魚でも百あ
 といふか金
 と列べと
 二せあ
 ぶらう
 ちんば
 ちんば
 ちんば

大寄切下

四

芳川俊雄の著る『開化』は、明治維新の激動を、その著者の切實な観察と、鋭い筆致で描き出した。その内容は、開化の初期から、その終末まで、その社会のあらゆる側面を、生々しく描き出した。その内容は、開化の初期から、その終末まで、その社会のあらゆる側面を、生々しく描き出した。

芳川俊雄の著る『開化』は、明治維新の激動を、その著者の切實な観察と、鋭い筆致で描き出した。その内容は、開化の初期から、その終末まで、その社会のあらゆる側面を、生々しく描き出した。

芳川俊雄 閱



岡本貴泉著
歌川國松画

御届 按田祝周示之地
明治十五年 編輯岡本勲造
三月廿七日 横山三目之地
出版人 辻岡文助

編者 芳川俊雄
開化 全
開化 女用文章 全

新編 天白首 全
金花七變化 全

義烈 天白首 全
金花七變化 全

漢語 伊呂波字 全
鶯衣女鳴神 全

文 錦繪問屋

錦繪問屋 全
日本橋區横山町三丁目二番地
出版人 辻岡文助

定價拾貳圓五厘

